

会津若松城の逸話

城や殿様にまつわる話

蒲生氏郷が接待した時の献立

文禄3年（1594）10月25日、蒲生氏郷が、豊臣秀吉など京都に居た大名や家来など約450人を京都の蒲生氏郷邸呼んで接待しています。『岡家文書』には、各大名に宛てた招待状が記載されています。また、滋賀県日野町にある馬見岡綿向神社の『馬見岡綿向文書』には、献立表があり「七の膳」まで書かれた超高級料理で、献立の材料には「白鳥、鶴、鯛、あわび」などがありました。夜間には、ろうそくを2400本使用し、帰りの手土産には「紅花、綿、銀」が送られています。

蒲生氏郷の墓

文禄2年（1593）、文禄の役で、佐賀県の陣に居たとき、氏郷は会食後から下血に見舞われました。文禄3年（1594）の10月25日にあった大宴会の時、氏郷の病状を心配した豊臣秀吉が、翌日、当時随一の医師でもキリシタンでもあった曲瀬道三（まなせどうざん）に診療を頼んだものの病状は回復しませんでした。文禄4年（1595）2月7日、京都二条の柳馬場の蒲生氏郷邸において40歳で亡くなります。葬儀は京都の大徳寺で行われ、墓は、大徳寺内院の昌林院に埋葬されました。昌林院は廃寺となり、現在の黄梅院に五輪塔がありました。福島県会津若松市の興徳寺（市中央公民館西側）には、氏郷の遺髪（『新編会津風土記』には分骨とあり）を埋めた五輪塔の墓があります。当初、興徳寺の氏郷墓は、卵形をしていたものを後に五輪塔にしました。なお、二代秀行の墓は、会津若松市館馬町にある弘真院に五輪塔があり、三代忠郷の墓は会津若松市中央二丁目の高巖寺の裏にあります。

文責 石田明夫